

## 学期と行事で考える

# 学級経営の基本

### 最初の1週間の雰囲気 そのクラスの1年間の雰囲気に



大阪府公立小学校教諭  
**松森靖行先生**  
岡山県の小学校教諭を14年間務め、4年前に大阪府へ。岡山時代から、市教育委員会と協力して初任者研修や若手研修を担当。近畿：教育実践のための教師塾代表。学びの場.comで教育エッセイ連載中。



『できる教師の目配り・気配り・思いやり』(明治図書)  
若手の先生向けに書かれた、学級経営の基礎的内容紹介。小学校対象に書かれているが、生徒や保護者の心にどう寄り添うかという視点が、高校現場にも通じる。

図1 松森先生が毎年作成する学級経営戦略シート

平成29年度 学年3週 学級経営戦略シート 担任: yamaguchi masahiro 平成29年4月4日発行	思いやりのある、感じのよい人になる KJHJ 全面に
最終目標	考動(こうどう)できる人に 場に合わせて行動を
具体的成果	全力・仲間・礼儀・花心・草心・根心・伝説を伝統に
学級テーマ	「共通」「安心感」「関心」「理解し合う」「応援団」「自己教育力完成」

※注釈：KJHJとは、「感(K)じ(J)い(i)人(H)」の略

### 松森先生お薦め学級経営の参考図書

『ゼロから学べる学級経営』  
長瀬拓也著(明治図書)  
学級経営に必要な要素を、S(システム)R(ルール)R(リレーション)C(カルチャー)G(ゴール)の視点で説明する若手向けの入門書。

『インクルーシブ教育の基礎・基本と学級づくり・授業づくり』  
関田聖和著(黎明書房)  
困っている子どもへのアプローチの仕方や、授業の作り方など、インクルーシブ教育の視点でわかりやすい。

『学級経営は「問い」が9割』  
澤井陽介著(東洋館出版社)  
学級経営では、個の学びを深める働きかけが不可欠。そんな個の学びを深め、集団作りの核となる「問い」の大切さがわかる。

『講話録 真理は現実のただ中にあり』  
森信三著(致知出版社)  
教育思想のないところで、学級経営はできないと考えている。哲学者の言葉の中に、そのヒントがある。

『子どもの心に光を灯す』  
東井義雄著(致知出版社)  
教職者としての長年の経験の中から語られる子どもたちへの愛があふれた講演録。教師として何をすべきか、考えさせられる。

学級経営はまず、最初が肝心。「以前は『黄金の3日間』といわれたが、今は最初の1週間が勝負だと、私は思っています。この1週間できれた雰囲気だと思えば、その後1年間のクラスの雰囲気だと思えば、いい」とは、長年小学校で学級経営に向き合い、初任者研修や若手研修を担当する松森靖行先生。多くの若い先生たちを指導してきた経験から、「4月は、いい意味で厳しい姿勢で臨むことが大切」と強調する。

「厳しくといっても、怒鳴ったり、高圧的な態度をとることはありませぬ。クラスの中で、してほしいこと・してほしくないことのルールを厳格に示し、二つ二つ丁寧に繰り返して伝え、注意喚起することです。高校生であれば、ルールづくりも自分たちで行うといいでしょう」(松森先生以下同)

そんなルールを明確にするために、松森先生は学級経営戦略シート(図1)を毎年作成している。目指す最終

の生徒像から、具体的なありたい姿を描き、下の欄には、さらに日常の行動を記している。先生の事例には、小学校6年生なので、挨拶・自分なりの大きな声で、教師からも挨拶する(などが記されているが、実はこのくらいが砕けた「できていない生徒像」のほうが、実施しやすく、現実的だ。さらにこの内容は、学級通信で保護者にも共有する。

「学級経営は、教師と生徒だけではなく、保護者との関係も非常に重要です。ですから、4月は生徒との関係づくりだけでなく、保護者との関係づくりにも力を入れて、4月に集中的に電話で保護者と話をします」

電話では、まず子どもの良いところを伝え、逆に保護者の要望などを聞く。そこまでは驚かされる小学校でも珍しく、最初は驚かれることもあるという。しかし、それによって安心され、その後の情報伝達がしやすくなるのだ。

松森先生は、学期ごとに学級経営のテーマを設定している。

● **共感と安心を育む1学期**  
前述した4月の重要性とともに、1学期は、教師と生徒や教師と保護者、生徒同士が関係を築いていく時期。だからこそ、まずは生徒の話に共感し、受け止めていくことが重要だと言う。

「結局、ちゃんと自分を見てくれていて、理解してくれているということが、安心感につながっていくんです。クラスが荒れるときというのは、問題行動を起こしている生徒の存在ではなく、それらの生徒に教師がかかりすぎりになってしまっている、放っておかれた何でもない生徒が荒れるんです」

● **関心をもち、理解し合える関係を築く2学期**  
2学期は、1学期に得た安心感を活かして、さらにお互いに関心をもつて理解し合えるクラスに成長させることを目指す。

「ちよつとしたゲームを夏休み明けに行うのもいいですし、授業の中で、お互いに聴き合うようなワークを多く取る

入るのもいいと思います。高校生にもなると、ミニゲームなど最初は「しらこ」とした雰囲気は漂うかもしれませんが、せんが、気にせずやり通すことも大事です。対話によって、生徒たちが着実に変わっていくのがわかるはず」

● **自己教育力を育てる3学期**  
自己教育力とは、生徒が自ら考え行動できる力。例えば係で決められたことをやるだけでなく、自分から周囲を見て必要だと思ったことに取り組んだり、そういう人を応援できること。松森先生は、「担任が1週間いなくても機能するクラスづくり」と表現している。

「ただ、3学期は新しいことに取り組むというより、1、2学期にやってきたことの延長で、自分から考えて動くような機会を増やすイメージで行うほうが、3学期は生徒も疲れているので、取り組みやすいでしょう」

行事の後には要**注意**  
**必ず振り返りを行う**

学級経営では、せつかつくまうくいつ

いたと思ったクラスが崩壊しそうになる「魔の月」があるという。

「一般的には、6月、11月、2月といった、各学期の成熟期ともいえる時期。体育祭や文化祭など大きな行事の後、危険信号です。それまで「生懸命がんばってきたことがひと段落して、気が抜けてしまうのです。ご自分のクラスならどの時期が要注意か予測してください。これを防ぐには、毎回、必ず振り返りを行うことです。『今の活動で、自分とはとてもがんばったと思う

人は3点、そこをがんばらたと思う人は2点、普通だと思ったら1点、あまりがんばらなかつたら0点で、自分は何点が挙げてみて」と、挙手するだけでもいいのです。自分や周囲の人の行動を振り返り、活動の意味を考える時間をとることが大切です」

学級経営は、一気に全力でやるのではなく、年間を通じて全体で100にするにはどうするか。そんなバランスも考えながら、積み重ねていくことが必要だと言う。

新しい1年の始まりとともに、新たなクラスづくりもスタートします。1年を通じてどのように学級を運営していくか。日ごろから学級経営に力を注ぐ小学校の先生に、学級経営の基本を取材しました。

### 学期ごとのテーマに沿って クラス全体を捉えていく

取材文/清水由佳(ライター・キャリアカウンセラー)

高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための**進路指導・キャリア教育専門誌**

先生とともに **50周年** Career Guidance

キャリアガイダンス

編集協力委員を募集中です

1969年にスタートした『キャリアガイダンス』は、今年創刊50周年を迎えます。創刊以来、就職・進学にかかわらず、その後の人生を見通した主体的な進路選択を支援する道を模索してまいりました。これからも、最前線で進路指導・キャリア教育に向き合う先生方と共に誌面を作ってまいりたいと思っています。毎号の読者アンケートや、年数回の編集部からのアンケートにご協力いただける編集協力委員にご登録いただきますと、発行物やメールマガジンを毎月お手元にお届けいたします。ぜひ多くの先生方にご参加いただけますと幸いです。

お申し込み方法

- お名前
- メールアドレス
- ご自宅住所
- 勤務先高校名
- 校務分掌

を明記のうえ、下記アドレスにメールください。  
※高校教員以外の方はご応募いただけません。

career@r.recruit.co.jp

キャリアガイダンスシリーズとメールマガジンを毎月お届けします!